



東京赤坂ロータリークラブ

NO.1171 / 2013.11.15

例 会/ANA インターコンチネンタル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

http://www.akasakarotary.com/

東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2013～2014 年度クラブテーマ
会長 西澤 民夫

「みんなで参加、心地よいチャレンジを！」
Join Together with Good Challenge!

●本日の例会/ 2013年 11月 15日 第1279回

卓話：イニシエーションスピーチ
東京国際コンサルティング株式会社
代表取締役 齊藤 治彦 氏（当クラブ会員）

●前回報告/2013年 11月 8日 第1278回例会

卓話：ピアニスト 泉 晶子 氏による
ピアノコンサート



②インドにある RI 第 3000 地区 MADURAI WEST RC の Er.L.balaji さんとバナー交換。



③11 月 21 日(金)千代田グループ合同懇親会は延期となりました。



11月 8日(金) / 7件 14,000 円

累計 527,000 円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

西澤民夫/泉さん本日は楽しみにしています。田村昭二/風は少しありますが、素晴らしい秋晴れです。泉さん本日のコンサート楽しみにしています。橋本年男/泉さん今日のピアノコンサート大変楽しみです。佐藤仁/穂苅様、ニコニコご苦労様です。泉様のコンサートが楽しみでした。岩上義明/小原さん、田村さん昨日は大変申し訳ございません。深く反省しております。小林博茂/屏風と食べ物は揚げたらツブれまっせ...とある京都の女将の言葉だそうです。今朝の新聞コラムの請け売りです。穂苅裕久/泉さんのピアノとても楽しみです。本日も沢山のニコニコどうもありがとうございました。

出席報告：会員 38 名/出席 18 名 欠席 20 名

ゲスト：金子花、藤島シュミ、Er.L.b alaji

ビジター：レトレ ロイック（東京 RC）、
計 4 名（順不同・敬称略）

会長報告：

一般社団法人 古典芸術振興会 金子 花さんよりお知らせです。「台湾のロータリークラブの王先生からお手紙が届きまして、今、世界中でとても人気があって素晴らしい「神韻」ツアーを日本のロータリークラブの皆様にご覧いただきたいという主旨でした。よろしく願い申し上げます。」



親睦だより (NO.2)

①12月3日（火）「火曜会」はやりません。

②12月20日（金）「忘年家族会」に皆さん奮って参加しましょう！

③11月26日（火）親睦ゴルフ会、場所日本コンチネンタル参加人員 12 名 3 組で開催する予定です。参加する人は楽しく、参加しない人は結果報告を楽しみに。

●次回予告/ 2013年 11月 22日 第1280例会

卓話予定：キャノングローバル戦略研究所

代表取締役 福井 俊彦 氏(元日銀総裁)

Guamは初めてなのですが、11月6日、舟木ガバナーP B G公式訪問に併せてGuam島内の2クラブの例会(7:00amGuamサンライズ、12:15ノーザンGuam)に出席してまいりました。千代田グループとのグループフォーワンパートナーシップの相手であるノーザンGuamとは東京でバナー交換済みですので、今回はGuamサンライズとのみ行いました。

例会場に着きましたら、愛宕クラブからも2名(尾関会長ほか)来られてました。日本人メンバーですが、Guamサンライズには坂元様、ノーザンGuamには宮後様が在籍中です。また後者の例会には5名もの女性会員が参加されてました。来年2月の地区大会にはノーザンGuamからポーリノ会長ほか数名が参加されるそうですが、ポーリノ会長からはその際に当クラブの例会にも出席したいとのご意向を伺いました。なお、当日はノーザンGuamの第38回チャーターイベント日に当たり、配付された冊子(12ページ)を持ち帰りましたので事務局に預けておきます。38年間の活動記録(イベント、出来事)が列挙されていますが、設立には日本人の方々の尽力があったことがわかります。高師様、それと現地の坂元様、宮後様にはお世話になりました。私が帰国した後もガバナー訪問は9日まで続きます。大変ですね。(石井(達)記)



左 藤 田 氏



『米山 梅吉』(ロータリージャパン「はじまる一歩」より)

日本のロータリーの父と呼ばれる米山梅吉氏は、1868年2月4日、江戸芝田村町で生まれました。米山氏が生まれたのは慶應4年、この年の6月に改元して明治となりました。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、先月号でご紹介した、ロータリーの創始者ポール・ハリス氏が生まれたのは、1868年4月19日。くしくも、この二人は同じ年に生まれたのです。5歳で父を亡くし、母親の実家のあった静岡県三島市で幼年時代を過ごすことになります。彼は、神童と言われるほど頭のいい子どもであったようですが、12歳の時、望まれて米山家の養子になりました。

1888(明治21)年、米山氏は渡米して、オハイオ州ウェスレアン大学を中心に、働きながら学びました。帰国後の1897(明治30)年、合名会社三井銀行に入社、1924(大正13)年、三井信託株式会社を創立し社長に就任しました。

米山氏が、東京ロータリークラブ(RC)を創立したのは、その少し前、1920(大正9)年です。創立は10月20日。同クラブは、翌1921(大正10)年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟認証されました。

1918(大正7)年元旦、当時、ダラスRCの会員であった福島喜三次氏を米山氏が訪れています。『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』には、「ここで二人が知り合ったことは、後に、極めて重大な結果を生むのである」と書かれています。翌年12月に帰国を予定していた福島氏にダラスRCの会員は、日本でもロータリーをつくらと勧め、福島氏は「やってみよう」答えます。

米山梅吉 帰国後、福島氏は国際ロータリークラブ連合会から、東京RCをつくるようにと特別代表に任命され

ます。先の『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』には、「期限は残すところ3ヶ月余、一方、チャーター・メモバーの顔振れを見ると、米山とて、短期日では揃え得なかったと考えられる。そうすると、福島は、特別代表に任命されて、時を移さず、その権限を米山に一任したものであろうと推察される」と書かれています。このような経過をたどり、米山梅吉氏は、東京RCの初代会長に就任します。

東京南RCに在籍していた米山梅吉氏の子息、米山桂三氏は、帰国の翌年父は三井銀行に入社するのですが、日本資本主義の発達に波に乗って父は出世街道をばく進する幸運に恵まれたのであります。(中略)

しかし、この間にも少年時代に染まった理想主義や苦学生時代の苦い経験、あるいはアメリカ留学時代の教育を忘れなかったためか、父の理想主義的な社会改良思想は消えていなかったようであります。そうしたわけで、今や富める資本家階級の一員となった父にとってロータリーの奉仕の精神はまさに彼に彼の思想の安住の場所を与えたようであります(もっともマルキストに言わせれば、それはブルジョアの逃避の場所ということになるでしょう)。こうして父はロータリーの仕事にも専念したらしいのですが、この頃の父はどうやら余り融通のきかないロータリアンであつたらしく、ある例会のとき会長として次週の例会は祝祭日に当たるので休会するとお断りしたところ、出席会員から喜びの拍手がわいたのを見ると、いきなり強い語調で立派な会員の方々をたしなめたという、父の口から聞いた伝説ならざる逸話が残っているのであります。(『友』1972年8月号)と、父、米山梅吉氏のロータリーに対する思いについて書いています。

編集長 二神 典子
(ロータリージャパン「はじまる一歩」より)